



第5回 東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会in宮城 開催のご案内

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会は、障害のある人の生活上の困難を「支援技術」と呼ぶ工学技術を活用して少しでも取り除く活動に取り組んでいます。東日本大震災の被災地である宮城県において、我々が専門的に取り組んでいる中から、9つの分野で講習会を開催することにしました。このイベントを通して、少しでも被災地の復興の一助になればと思っています。被災地以外からも多数ご参加下さいますようお願いいたします。

(会長 繁成剛)

日 程： 2017年5月13日(土)～14日(日) (2日間)

主 催： 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

共 催： コミュニケーションSIG、SIG姿勢保持、車いすSIG、特別支援教育SIG、自助具SIG
SIG住まいづくり、移乗機器SIG、乗り物SIG、SIG褥そう防止装置

協 賛： 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会賛助会員等各社

会 場： 戦災復興記念館 (4階 第2会議室・研修室・第1会議室)

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町二丁目12番1号

TEL.022-263-6931 FAX.022-262-5465

定 員： 100名(先着順)

参加費：	青森県、岩手県、宮城県、福島県にお住まいの方	3,000円
	上記以外にお住まいの方	5,000円
	学生	2,000円

昼 食： 各自昼食をご用意ください。なお事務局にてお弁当(お茶付きで1000円)の注文をとりまとめさせていただきますので、ご希望の方は参加申込書にてお申し込みください。

申込締切： 2017年4月24日(月) 定員になり次第受付を終了させていただきます

申込方法： 参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にて下記までお申し込みください。

参加費は事前振込制とさせていただきます。お申込を受けさせていただいた方には、後日、参加費請求書をお送りいたしますので期限までにお振込をお願いいたします。

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 担当：深野栄子(協会事務局)

〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田2-7-20 TEL.045-353-8364 FAX.045-353-8365

第5回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 宮城プログラム

		1日目 5月13日(土)		2日目 5月14日(日)	
9:30～	受付:			第2会議室(60名)	第1会議室(60名)
		第2会議室(60名)	研修室(64名) ※固定席(階段教室)	09:00～ 10:20	⑨移乗機器 SIG 「みんなが「使ってくれる！」移乗機器の導入のコツ」 講師:松本多正((株)楽々サービス)、大場薫(宮城県介護研修センター)
10:00～ 10:10	開講式(予定) 会長挨拶:繁成剛(東洋大学)、実行委員長挨拶:沖川悦三(協会理事・神奈川県総合リハセンター)				⑩自助具 SIG 「身近な福祉用具、自助具の選び方、使い方」 講師:岡田英志(ヒューマン)
10:10～ 11:30	①特別企画 司会:繁成剛(会長)、沖川悦三(災害対策委員長) 1:「宮城県名取市箱塚桜団地仮設住宅と共に」 講師:市川一子(箱塚桜団地 ゆめ工房) 2:「東日本大震災・熊本地震を通してリハビリテーション工学ができたこと、できなかったこと」 発言者:岩崎満男(理事)、吉田泰三(理事)			10:30～ 11:50	⑪移乗機器 SIG 「みんなが「使ってくれる！」移乗機器の教え方・伝え方」 講師:松本多正((株)楽々サービス)、大場薫(宮城県介護研修センター)
11:30～12:30	お昼休み		11:50～12:50		お昼休み
12:30～ 13:50	③SIG 姿勢保持 「標準型車椅子での座位姿勢を改善する具体的な方法と技術」 講師:繁成剛(東洋大学)、鈴木聖貴(川村義肢)	④SIG 住まいづくり 「高齢や身体障害のため、起立や歩行ができなくても、福祉用具を活用し住環境改善で楽しい生活を！」 講師:松尾清美(佐賀大学)	12:50～ 14:10	⑬車いす SIG 「車椅子用クッションの選び方・使い方」 講師:江原喜人(総合せき損センター)	⑭コミュニケーション SIG 「情報通信機器(パソコン、スマートホン、タブレット)を操作する入力装置について」 講師:上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)
14:00～ 15:20	⑤SIG 姿勢保持 「見近な材料を使った姿勢保持具の製作実習」 講師:本郷俊哉(木村義肢)、鈴木聖貴(川村義肢)	⑥乗り物 SIG 「重度障害と被災～地域防災力の向上に向けて～」 講師:櫻井理(NPO法人 Li FESET)	14:20～ 15:40	⑮車いす SIG 「地域包括ケアシステム」における車椅子ユーザーの生活」 講師:桂律也(クラーク病院)	⑯SIG 褥そう防止装置 「新しい褥そう概念とリハビリテーション工学」 講師:河合俊宏(埼玉県リハセンター)
15:30～ 16:50					
		⑧特別支援教育 SIG 「発達支援をかんがえよう！」 講師:北山淳(大和大学)			

※プログラム内容は、都合により変更になる場合がございますのでご了承ください。

※研修室は飲食不可のため、4階第5会議室(15名)または5階和室(25名)をご利用ください。

プログラム概要 ※プログラム内容は、都合により変更になる場合がございますのでご了承ください。

<p>①特別企画 司会:繁成剛(会長)、沖川悦三(災害対策委員長)</p> <p>1:「宮城県名取市箱塚桜団地仮設住宅と共に」 講師:市川一子(箱塚桜団地 ゆめ工房)</p> <p>東日本大震災で、閉上地区は5,600人の住民のうち死者行方不明者が約800名という大きな被害に遭い町はなくなりました。すべてをなくし仮設住宅に暮らす人たちが、少しでも明るい気持ちで取り組める手仕事を。そんな想いから閉上の方が入居している仮設住宅「名取市箱塚桜団地」に2012年3月、アクリルたわしを製作販売する「ゆめ工房」を立ち上げました。「ゆめ工房」は、平均年齢75歳 最高年齢88歳になる方々とボランティアメンバーで活動しています。当日は「ゆめ工房」の歩みを通じて、箱塚桜団地の過去、現在、未来ついてご講演いただき、熊本地震の活動報告などを通して日本リハビリテーション工学協会としても災害支援のあり方を考えてみたいと思います。</p> <p>2:「東日本大震災・熊本地震を通してリハビリテーション工学ができたこと、できなかったこと」 発言者:岩崎満男(理事)、吉田泰三(理事)</p>

③SIG姿勢保持

「標準型車椅子での座位姿勢を改善する具体的な方法と技術」

講師:繁成 剛(東洋大学)、鈴木聖貴(川村義肢)

概要:折りたたみのできる標準型車椅子はスリングシートを採用しているため、高齢者が座った時に「滑り座り(仙骨座り)」や「斜め座り(側屈姿勢)」になりやすい。このような姿勢で長期間座っていると褥瘡や脊柱などの変形を生じる可能性が高いので何らかの対処が必要である。可能であれば使用者の体型や状態に合わせて調整できるモジュラー型車椅子で個別に対応することが望ましい。しかし高齢者施設の現場では標準型車椅子を使わざるを得ない状況が多いので、できるだけ費用がかからず、特殊な工具や素材がなくても、車椅子利用者の状態に対応する知識と技術が必要と考える。そこで、本講習ではホームセンターや百元ショップなどで入手できる発泡材やマジックテープなどを使って、姿勢を改善する簡易的な方法について紹介する。

⑤SIG姿勢保持

「見近な材料を使った姿勢保持具の製作実習」

講師:本郷俊哉(木村義肢)、鈴木聖貴(川村義肢)

概要:標準型車椅子のスリングシートに高齢者が座ったときに座位が不安定になる原因の一つは、シートの撓みによって骨盤が後方あるいは左右に傾き、臀部が前方に滑ることである。これを解消するには撓んだシートを通常の椅子と同様のしっかりとした座面にするため、バスマットなどの発泡材をカッターナイフで切り出して、撓んだスリングシートを補正する船底型ベースを設置し、その上に骨盤の後傾と左右の傾斜を防ぐサポートと前方への滑りを防ぐアンカーサポートを、発泡材をカッターナイフで加工し、万能ボンドで接着して製作する。その上に柔らかいウレタンフォームや化繊綿等の入った薄い座布団を滑らないようにカバーすれば、簡易的なモールドシートが完成する。さらに対象者の姿勢を改善するためには、必要に応じて骨盤後方から腰椎下部にかけてサポートするクッションや、左右の体側サポートを加えることが必要である。以上のような車椅子上の座位を改善する姿勢保持具を参加者に製作していただく予定である。

④SIG住まいづくり

「高齢や身体障害のため、起立や歩行ができなくても、福祉用具を活用し住環境改善で楽しい生活を！」

講師:松尾清美(佐賀大学医学部 地域医療科学教育研究センター 福祉健康科学部門)

概要:高齢となったり、事故などで身体に障害が現れて、起立したり歩行することができなくなったとしても、身体機能に適した福祉用具を活用し、住環境を移乗・移動方法、過ごしたい生活方法などに合わせて改善し、自分でできること(自立)を増やし、自分でできないことは介助者にやって欲しい方法で介助を依頼(自律)して誇らしく、楽しい生活をする方法を事例や動画を通して伝達したいと考えています。

⑥乗り物SIG

「重度障害と被災～地域防災力の向上に向けて～」

講師:櫻井 理(NPO 法人 LIFESET)

概要:東日本大震災から丸6年を迎えたが、被災地の復興は、まだまだ道半ばといった印象である。私は、宮城県名取市で、家族と共に、在宅生活を送っている筋ジストロフィー患者で、2003年の秋から、生命維持のために人工呼吸器が24時間必要な生活を送っているが、地域社会の中で暮らすことを選択し、現在に至っている。今回、『重度障害と被災』をテーマとし、私自身の体験とそれに基づく考えに加えて、震災後の活動を通し、明るみとなっている現状の検証と課題の考察を行い、地域防災力向上に向けた【当事者参画と地域ネットワーク】の必要性を考えたい。震災では、人工呼吸器の電源を失い、人工呼吸器の作動停止といった危機的状況に陥った。手動の救急蘇生バッグ使用により、辛くも命を繋いだといった状況であった。震災の状況を振り返りながら、重度障害や難病のある方が安心安全に暮らしていける地域づくりやネットワークの構築について、提言をさせていただく。

⑧特別支援教育SIG

「発達支援をかながえよう！」

講師:北山 淳(大和大学)

概要:作業療法士の北山です。

これまで、お子さんの対人スキルに関わる表情認知の特徴をアイカメラを用いて把握したり、学校現場で環境調整に取り組んだり、子どもたちがのびのびと育てる手立てや環境を探ってきました。現在は大学で人材育成にも携わっています。

講習会では、発達に多様な子どもたちへの支援のヒントについて話題提供しつつ、みなさまと一緒に考える時間としたいと思います。

教育分野に限らず、さまざまな立場からのご参加をお待ちしています。

⑨ 移乗機器SIG

「みんなが「使ってくれる！」移乗機器の導入のコツ」

講師：松本多正（(株)楽々サービス）、大場薫（宮城県介護研修センター）

概要：リフトやトランスファーボード、スライディングシートなど、少しずつ移乗機器を導入してくれる病院施設が増えてきています。でもいざ導入してもなかなか思うように使ってくれていないという場面はありませんか？なぜなのでしょう…。「一生懸命勉強会をしたのに…」「いつでも使えるように台数を入れたのに…」いつの間にか使われなくなり、今までの方法に戻ってしまう。そんな経験はありませんか？

また、導入することに対してなぜ嫌がる方がいるのでしょうか？どうすれば前向きに移乗機器を受け入れてくれるのでしょうか？

今回のセミナーでは機器を導入するときや、定着させたいときのヒントを「ケアの現場の方に向けて行ったら良いこと」と「施設長や事務方に向けて行ったら良いこと」という2つの視点で、実際に複数の病院施設に機器導入を行ってきた経験を踏まえてお話しします。

⑩ 自助具SIG

「身近な福祉用具、自助具の選び方、使い方」

講師：岡田英志（ヒューマン）

概要：はじめに、生活の中での自助具の事例紹介をし、自助具のサンプルを元に使い方や製作時のポイントをお話しします。後半は、握りやすいスプーンの製作など、実際に体験する事で自助具を身近に感じていただきたいと思います。最後は質疑応答の時間といたします。

⑪ 移乗機器SIG

「みんなが「使ってくれる！」移乗機器の教え方・伝え方」

講師：松本多正（(株)楽々サービス）、大場薫（宮城県介護研修センター）

概要：移乗機器に関わらず、福祉用具の使い方を教えるときに「教えたとおりにしてくれない」「なかなか覚えてくれない」という悩みを抱えていませんか？

また、せっかく教えて、使ってくれていても、マニュアル通りにできないケースが出てくると途端に使ってくれなくなったなどの悩みを持っていませんか？

もしかしたら、それは「教え方や伝え方」を工夫すれば改善できるかもしれません。

今回は実際にスライディングシートやトランスファーボード、リフトなどを例にしながら「効果的な教え方・伝え方」について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

⑫ コミュニケーションSIG

「力の弱い障害を持つ方のゲーム操作を考えよう！」

講師：田中栄一（国立病院機構八雲病院）

概要：力が弱くてゲーム機器をうまく使えない障害をもつ方々がいます。

クラスメイトがゲームで遊んでいるのを、ただ隣で眺めているだけではつまらない。

自分も一緒に対戦したい。仲間に入りたいと思うのです。

今回取り上げるのは、任天堂やSONYのゲーム機や、スマホのゲームです。

海外では、日本製のゲーム機器の工夫の情報交換が積極的に行われているようです。

この機会に、ぜひ日本でも、どんな操作方法の工夫や、楽しみ方があるのか？意見を交わしましょう！

⑬車いすSIG

「車椅子用クッションの選び方・使い方」

講師：江原喜人(総合せき損センター)

概要：車椅子を使用する時、クッションもセットで考えるのが基本です。現在では、数多くの種類が市販・貸与されています。それらの素材の特徴や構造の意味などを知り、使用者にとって適切なものを選択することが重要です。調整が必要なクッションも増えていますので、その調整方法を知ることも必要です。

今回は、体圧分布測定器を使った実習を交えながら、車椅子用クッションの特徴について、また使用者や車椅子に合った選び方、適合方法などについて一緒に考えていきたいと考えています。

⑭コミュニケーションSIG

「情報通信機器(パソコン、スマートフォン、タブレット)を操作する入力装置について」

講師：上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)

概要：情報通信機器として代表的なパソコンは普及して久しい。

最近の特徴はスマートフォンやタブレット端末の普及が著しいことである。

これらは表示画面を指で触れることで操作する(タッチ操作)方法は共通であるが、オペレーティングシステム(基本ソフト)の違いにより Android 系と iOS 系に分類され、外部(スイッチなど)からの操作方法が異なる。Android 系端末はパソコンと似ており「USB マウス/キーボード」が利用できる。iOS 系端末では「無線(Bluetooth)機能付きのキーボード」や基本ソフト上に「スイッチコントロール」機能が盛込まれており、有線や無線で接続した「スイッチ」のスキャン操作が可能である。

この講習会ではこれら情報通信機器の特徴を考慮しながら、現在市販されている入力装置について説明し、実際の導入事例や導入時に利用できた福祉制度等についても紹介する。

⑮車いすSIG

「「地域包括ケアシステム」における車椅子ユーザーの生活」

講師：桂 律也(クラーク病院)

概要：「地域包括ケアシステム」の平成 30 年度の運用開始に向け、主体となる市町村はもちろん、障害者当事者・介護保険各種事業者・関連職団体などは、困惑しながらも取り組みが進んでいるところです。そんな中で、このシステムと、障害者・子どもの福祉との連携運用を図るため、障害者総合支援法と児童福祉法の一部を改正する法律が、平成 28 年度に成立・公布され、平成 30 年 4 月から施行されます。今回は、車いす SIG として、本システム運用後、車椅子ユーザーの生活にどのような変化が起こると想定されるかについて、数例のユーザーを仮想して、シミュレーションしてみたいと思います。その上で、リハビリテーション医療関係者、車椅子業者、介護保険事業者などに求められる今後の対応についても言及する予定です。

⑯SIG 褥そう防止装置

「新しい褥そう概念とリハビリテーション工学」

講師：河合俊宏(埼玉県リハセンター)

概要：褥そうは、長い間リハビリテーション工学の対象とされてきています。

脊髄損傷の坐骨部、寝たきり高齢者の仙尾骨部、装具の不適合による下腿と、問題が明確であっても、なかなか完治せず、褥そうをもったまま生活している方も少なくありません。

最近になって概念が、より広く再定義されています。人工呼吸器利用者のフェイスマスク部周辺、瘻管理のチューブ固定、テープ貼付による皮膚損傷と、従来の概念だけでは説明がつかないものも、新たな課題になっています。

今回、生活支援に展開してゆくために、用語の観点から解説をしたいと考えています。

深部組織損傷、医療関連機器圧迫創傷、Pressure Injury、ご存じですか？

是非、ご参加ください。

会場のご案内

【講習会場】 戦災復興記念館

〒980-0804 仙台市青葉区大町二丁目 12 番 1 号

TEL.022-263-6931 FAX.022-262-5465

<http://www.hm-sendai.jp/sisetu/sensai/index.html>



-交通案内-

- タクシーでおいでの方
仙台駅西口から約5分。(初乗り運賃)
- 地下鉄でおいでの方
仙台駅から泉中央行きで1分、広瀬通駅で下車。西4番出口から徒歩10分。
- バスでおいでの方
仙台市営バス、仙台駅西口バスプールのりばから約7分、東北公済病院・戦災復興記念館前で下車し、徒歩2分。
10番のりば 茂庭台、折立/西花苑行(西道路経由)
15番のりば 全路線
16番のりば 川内営業所行(広瀬通経由)
- 徒歩でおいでの方
仙台駅西口から約25分。

仙台市は「脱クルマ都市」づくりに取り組んでおります。ご来館の際はなるべく公共の交通機関をご利用いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

※お車でお越しの場合は近隣のコインパーキング等をご利用ください。